

## 網走市西が丘小がホタル放流会参加

【網走発】網走市立西が丘小学校（奥山るみ子校長）は四日、網走市卯原内で開催されたホタルの放流会に参加した。児童たちは自分たちで育てたホタルの幼虫を「元気でいてね」などと声をかけながら、そっと池にはなしていた  
＝写真＝

放流会を主催した網走西部地区資源保全協議会（上田薫会長）は、子どもたちに豊かな農村環境を引き継ごうと、二十二年から市内の卯原内地区に造成した「北ほたるの里」でホタルの里づくりに取り組んでいる。地元で「ほたるの学校」と呼ばれている西が丘小の児童とともに、幼虫の捕獲や飼育、放流会、観賞会を展開している。

放流会には、同校児童・PTAをはじめ、協議会メンバーや取組を支える来賓・地元企業らが参加した。

開会式で、上田会長が「ホ

## 夏にまた会おうね！

タルの飼育活動を通して、夢や感動を与えたい。ふるさとを愛する子どもに育ってほしい」とあいさつ。続いて、網走市の水谷洋一市長、佐藤伸弥道議会議員、オホーツク総合振興局網走建設管理部の村上順一郎長が祝辞を述べたあと、奥山校長が「命や自然の大切さを体験的に学ぶ活動。夏の夜空に光るのを楽しみに、元気に育つよう願って放流しよう」と児童たちに呼びかけた。

引き続き、この活動を支援している地元建設業者の網走工業㈱（網走、笠谷俊一社長）が、同校にホタルの本を寄贈。中山寿恵専務が「たくさん勉強して大事に育てて」と手渡すと、児童たちは「ありがとうございます」と笑顔で受け取っていた。

児童九人による、ホ

## 育てた幼虫を池に放す

タルの詩の朗読に続いて、一千五百匹のホタルの幼虫を放流。子どもたちは、幼虫の入ったコップを手に池に並んで、「元気でいてね」「夏に成虫になって会おうが楽しみ」などと話しかけながら、優しく放流していた。

帰りには、網走工業の社員からお菓子の詰め合わせのプレゼントも。子どもたちは、今月末ごろから飛びはじめるとホタルの姿を楽しみに帰っていった。

